

播磨科学公園都市のあり方検討 まちづくりチーム 第4回 記録

■開催概要

- ・ 日 時：2026年8月27日（火） 18:00-19:30
- ・ 場 所：光都プラザ コミュニティスペース cotohana（コトハナ）
- ・ 参加者：コーディネーター/有識者（2人）
地域住民（9人）
行政職員（8人）
傍聴者（4人）
- ・ プログラム内容：
 1. 開会
 2. ワークショップ（意見交換）
 3. 意見の共有
 4. 閉会

■意見交換のテーマについて（コーディネーターより）

- ・ これまでの会議では、様々なご意見をいただきながら議論を積み重ね、播磨科学公園都市の今後のまちづくりを考える上で必要となる材料や要素を整理してきた。これらを踏まえ、事務局において内容を整理し、6つのテーマに分類した。本日は、3つのテーブルに分かれ、6つのテーマを2つずつ組み合わせた上で、それぞれ関心のあるテーマについて意見交換を行っていただきたい。
- ・ ワークショップでは、テーマごとに、今後具体的にどのような取組を進めていきたいかを考え、その中で、短期的に取り組むべきことと、中長期的な視点で検討していくべきことを整理していただきたい。特に、短期的にできること、やるべきことについては、実際に取組を進めることを想定し、単に取組内容を挙げるだけではなく、「誰がやるのか」「いつまでにやるのか」まで具体的に整理する必要がある。
- ・ これからのまちづくりでは、行政と住民が一緒にできることや、それぞれが役割分担して取り組むことを整理しながら、地域の中で先行的に取り組めることを具体化していくことが重要になる。一方で、住民だけでは進めることが難しく、行政の支援や対応が必要となる取組もあるため、今後の会議で、今回出された取組について、役割分担や実施主体、実施時期などを整理し、具体化につなげていきたい。本日は、テーマごとに具体的な取組を考えていく最初の回として、まずは幅広く意見を出していただきたい。
- ・ また、前回の会議では、これまでに出了た意見をテキストマイニング等で整理してはどうかとのご意見をいただいた。これを踏まえ、アルパックにて、これまでの意見を、AIを活用して整理し、カテゴリーや意見の要素、今後の方向性につながるキーワード等を抽出した。本日は、これまでの具体的な意見とAIによる整理内容を見比べながら、内容に齟齬がないか、また、重要な意見や視点が抜け落ちていないかという点についても、あわせて確認いただきたい。

■イノベーションチームの状況報告（事務局より）

- ・第2回イノベーションチーム会議では、県の職員や専門家である大学の先生方等が集まり、議論を進めている。前回の会議では、第1回目同様に、テクノのイノベーションについて各委員から様々な意見をいただいた。
- ・産学連携については、現状まだ十分に進んでおらず、課題があるとの意見があった。一方で、播磨科学公園都市の強みとして、「地盤が強い」ことや、大学等の教育機関が立地していることが挙げられた。ただし、現時点では、まちづくりに関わっている大学はまだ限られているとの意見もあった。また、SPRING-8をはじめとする研究機関が立地していることも、この都市の大きな特徴であるという意見も挙げた。今後は、これら強みを活かしながら、研究開発やラボ的な機能・要素を播磨科学公園都市全体へ面的に広げていくことも、重要なテーマではないかという意見が出ている。

■アニメ「LONA」についての情報共有（事務局より）

- ・アニメ「LONA」は令和9年4月から放送が始まる予定であり、前回のまちづくりチームやイノベーションチームでも話題となっている。現在、県民局やSPRING-8等とも、アニメを活用して何ができるのかを話し合っており、前回のまちづくりチームでは、10月24日に開催されるフロンティア祭で活用してはどうかという意見があり、実現に向けて検討を進めている。
- ・市町や組合等とも連携しながら、「LONA」を一つの切り口として播磨科学公園都市をPRできないかと考えている。フロンティア祭当日は、オプトピアのホールに展示スペースを設け、播磨科学公園都市のPRコーナーを設置する予定である。具体的な展示方法や展示内容については、行政職員だけでなく、地域の方々からもアイデアをいただきながら形にしていきたい。まちづくりチームのメンバーに限らず、関心のありそうな方にも声をかけていただきたい。資料に申込フォームのQRコードを掲載しているため、関心のある方には参加いただきたい。
- ・初回の打合せは、9月15日（火）13時頃から16時30分頃までを予定しており、場所はオプトピアである。当日はSPRING-8の見学も予定しており、2時間程度見学した後、オプトピアに戻り、1時間程度、展示内容等についてアイデア出しを行いたい。2回目以降の打合せは9月下旬頃にもう一度実施し、10月中旬にはフロンティア祭に向けた展示作業を行う予定である。また、オプトピアのPRコーナーについては、10月24日のフロンティア祭からアニメの放送終了頃、令和9年6月頃まで設置し、期間中は展示物の入れ替え等も行っていきたい。

■ワークショップ（意見交換）の記録

- ・これまでの作業部会で出された意見をAIで整理し、その中から、意見が多く、具体的な議論を進めやすい6つのテーマを今回の議論対象として選定した。
- ・当日は、関連するテーマを2つずつ組み合わせて3班を設定し、当日参加の住民も交えて意見交換を行った。各班では、AIで整理した方向性のキーワードについて、これまでの議論との齟齬や不足している視点がないかを確認した上で、短期的に取り組むべき内容を中心に、具体的な取組や実施主体、進め方等について意見交換を行った。
- ・最後に各班で話し合った内容を全体に向けて発表し、他班からの質問・意見を交えながら全体で意見交換を行った。

【1班】

①検討項目：地域医療

方向性のキーワード（AI より）	付箋に記載の意見
・医療サービスの充実 ・地域医療連携 ・最新技術の活用	・福祉がヌケ ・協力がある、住民だけでは

何を？	誰が？	誰と？	どうやって？ どんなことから？
・オンライン診療・看護師等による診療支援	・学生（友達に運んでもらう） ・住民でできる話なのか ・どこを巻き込むのか？行政？医師会？	・県と市の支援 ・検査は無理でもフォロー ・調剤薬局が送る ・制限もある、種類	・今は市街（たつの・赤穂・新宮・上郡） ・色んなところから来るので対応できるように ・近隣に足を延ばす ・特化した先生が多い ・専門病院のような制度の考え方と合わない ・一方で、この地域のニーズが満たされていない
・既存のリハビリテーション病院の活用（診療・検診等）	・分かってる人に聞くところから		
・災害対応型病院など医療拠点機能の確保、充実		・別チームでの議論でリード	・岩盤、日常的機能
・介護がない →健康な人しか生きていけない	・出て行かざるをえない	・社会福祉協議会（住民票による担当の違い）	

※赤字：付箋に記載の意見

②検討項目：買い物

方向性のキーワード（AI より）	付箋に記載の意見
・買い物支援・互助 ・移動販売・宅配 ・買い物環境の充実	・外国の方 ・ハラル近所になし ・西クリスには色々な人を受け入れる素地

何を？	誰が？	誰と？	どうやって？ どんなことから？
・買い物ヘルパーや「おたすけタッチ」等を活用	・まちづくり協議会 ・有償ボランティア ・しくみ ・ジモティ ・学生のバイト ・シルバー（手いっぱい？得意、不得意）		
・相生方面等への交通手段の改善（運賃・運行頻度等）	・シェアライド ・住民、働いている人 ・防犯的にあぶない ・ご近所さんくらいなら ・行政？限度がある（現状維持の交渉でいっぱい）	・民間との調整 ・バスやタクシー	

※赤字：付箋に記載の意見

<発表>

- ・地域医療と暮らし・買い物について議論した。全体として、住民だけでできることは限られており、医療機関や行政等の既存の仕組みに詳しい人を巻き込んで話を聞いていく必要があるのではないかという結論になった。
- ・キーワードとして、福祉の視点、また外国の方など多様な人を受入れていくという視点なども重要なのではないかと意見が出た。
- ・現状、播磨科学公園都市内ではかかりつけ医がおらず、診療のため相生市や姫路市等まで移動しなければならない状況がある。リハビリテーション病院でそうした役割を担えないかとの意見もあったが、専門病院として特化した先生が多く、既存制度での位置づけとしても一足飛びに受診するような病院となっていないため難しいのではないかと議論があった。地域の医療ニーズが満たされていない現状に対する解決策として、「オンライン診療の仕組みを活用できないか」という意見が出た。一方で、「オンライン診療を担うのは都市外の医療機関になる可能性があり、住民だけで実現できるものではないため、行政から医療機関等へ働きかけてもらう必要があるのではないか」という声も挙がった。

- ・また、播磨科学公園都市は地盤が強いという特徴があるため、災害対応型病院などの医療機能を整備することも考えられる。ただし、これについても広域的な話であり、住民だけでは議論を進めにくい。ため、他の専門チーム等で議論をリードしてもらってはどうかという話になった。
- ・福祉や介護については、介護が必要な状態になるとそういったサービスを提供する施設がない播磨科学公園都市で暮らし続けることが難しく、「健康な人しか住めない都市」になっているのではないかという意見があり、各市町の社会福祉協議会等にも話を聞いてみてはどうかという意見が出た。
- ・暮らしの面では、交通に関して、公共交通機関の利便性が低いという課題がある。こうした課題は行政においても認識して働きかけを行っているが、現状の路線維持で精いっぱいであり、増便や運賃の値下げ等に関しては民間企業の経営的にも交渉が難しい。そうした中で住民としてもできることを考えたところ、シェアライドのような仕組みを導入できないかという意見が出たが、既存のバス・タクシー事業者等との調整も必要になる。より身近な取組としては、近所同士で車に乗せ合うことや、学生であれば先輩・後輩同士で送迎するといった助け合いも考えられるのではないかと、という意見もあった。
- ・また、手助けをする能力や少しの余力がある人と、ちょっとした手助けを必要としている人をつなぐ「お助け」ができるような仕組みがあればよいのではないかと、という意見も挙がっている。その際、例えば既存の仕組みを使うことや有償ボランティアのような仕組み作りを行うこと、学生やシルバー人材が担い手になるのではないかと案も提示された。

<他チームとの意見交換>

- ・播磨科学公園都市には外国人の方も多く住んでいるため、外国人の方々が暮らしやすい環境も考える必要がある。例えば、外国人の方が必要とする食材を扱う店舗が地域内にあればよい。現在は姫路市等まで買い物に行く方もいるので、播磨科学公園都市内で調達できれば暮らしやすくなる。この地域はもともと様々な人を受け入れてきた地域でもあるため、その特徴を引き継ぎ、多様な人々が幸せに暮らせる地域になればよい。
- ・地盤の強さについては、先ほどイノベーションチームからも話があったため、そのチームが中心となって、強い地盤を生かした災害対応型の病院をつくることを検討してはどうか。災害時だけではなく、平常時にも一般的な医療を受けられる病院となればよい。
- ・医療については、現在のリハビリテーション病院の機能や仕組みでは、一般診療まで受け入れることは難しいと思われる。医療機能の配置は兵庫県の医療計画等との関係も大きい。ため、県の医療行政を担当する部署等に、播磨科学公園都市の医療を充実させるためにはどのような仕組みや働きかけが必要なのか、アドバイスをもらってはどうか。
- ・播磨科学公園都市には学生等の若い人が一人暮らしをしているが、病気になった際には非常に大変である。親御さんからしても、周囲に医療機関がほとんどない場所で一人暮らしをさせるのは心配だと思う。若い人たちが集まり、元気に発展していくまちにするためにも、医療施設は非常に重要である。住民だけでできることには限界があるため、行政にも積極的に取り組んでもらいたい。

【2班】

○検討項目：防災・防犯

方向性のキーワード（AI より）	付箋に記載の意見
・防災拠点機能の強化 ・平時・災害時の両立 ・広域連携 ・高齢者の見守り ・住民同士の交流促進 ・多世代交流	・防災力のアピール（安心・安全のアピール） ・地域防災力の強化 ・災害でも地域としても安心安全

	何を？	誰が？	誰と？	どうやって？ どんなことから？
防災	・住民の災害対策マニュアル	・自治会 ・男性も女性も	・行政 ・住民 ・企業 ・外国人 ・コミュニティも	・防災訓練（毎年） ・小さい子から大人まで ・子ども達が参加するしくみ
防犯	・簡易的なつながり ・地域見守りカメラの設置	・自治会	・行政 ・住民	・100歳体操 ・ふれあい喫茶 ・3世代交流 （あゆのつかみ取り、祭りなど）

※赤字：付箋に記載の意見

<発表>

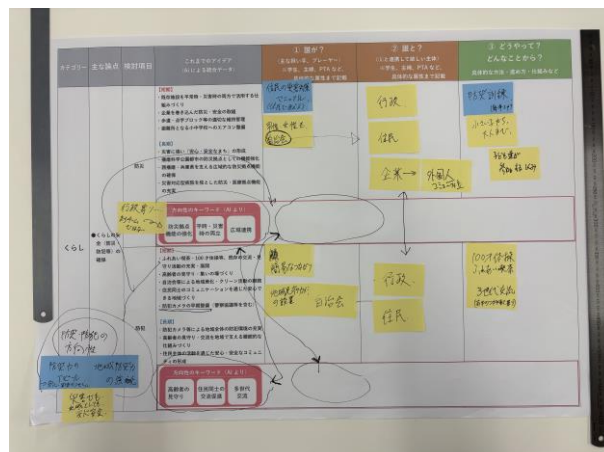
- ・防災については、まず「テクノにおける『防災・防犯』の方向性」について議論した。一つは、地盤が強く、山の上に位置しているといった地域特性を防災上の強みとしてアピールし、防災拠点となる病院等を誘致していく方向性である。もう一つは、地域住民が日頃から災害に備え、コミュニティを強化することで、地域全体の防災力を高めていく方向性である。今回はまちづくりチームであることから、主に地域防災力の強化に焦点を当てて議論した。また、地域防災力を高めることと地域のつながりを強めることは表裏一体であり、日頃から地域のつながりを育むことが、災害時の助け合いや防犯にもつながり、双方を高めていくことが重要である。
- ・地域防災を考える際には、居住者だけではなく、テクノで働く人や学ぶ人も対象として考える必要がある。災害発生時の初動体制等について、地域としてのマニュアルが十分に整備されていないのではないかという話があった。大規模災害時には行政職員がすぐに現地へ来られない可能性もあるため、少なくとも数日間は自助・共助で対応できるよう備えておく必要がある。
- ・佐用町で過去に発生した大規模な水害では、日頃から避難訓練等を行っていたことで、被害の大きかった地域でも人的被害を抑えられた事例がある。テクノでも、地盤が強い、水害が起こりにくいといったハード面の強みだけに頼らず、防災訓練等を継続的に実施し、ソフト面からも地域防災力を高めていくことが重要である。「ここに住めば安心」「ここで働けば安心」「ここで学べば安心」と思ってもらえるまちにしていけることが、テクノの魅力向上にもつながる。

- ・具体的な取組を進めるためには、中心となって動く主体が必要である。例えば、自治会が中心となって防災訓練等を実施し、行政が必要な部分を支援することが考えられる。また、こどもや外国人住民、企業等にも参加してもらい、地域の状況や避難時の困りごと等を把握・共有することも重要である。行政任せではなく、住民一人ひとりが防災を「自分ごと」として捉え、地域で助け合うことで、自助・共助による地域防災力を高めていくことが重要である。
- ・防犯については、防犯カメラが犯罪の抑止力として有効である。行政による設置だけでなく、自治会等が補助金を活用して設置することも考えられる。また、防犯カメラを設置していることを看板等で明示し、抑止効果を高めることも重要である。
- ・コロナ禍以前に行われていた、ふれあい喫茶、100歳体操、三世代交流、盆踊り等の地域行事が減っている。お金をかけなくても、こうした行事を通じて日頃から地域のつながりを育むことが、防災・防犯力の向上や安心して暮らせるまちづくりにつながる。学生や学校関係者も地域行事等に参加し、日頃からコミュニケーションを取ることで、「最近あの子を見かけない」「体調が悪いらしい」といった変化にも気づきやすくなる。
- ・自然環境や地盤等による「安全」に加え、地域につながりがあり、何かあったときにどう動けばよいかを住民同士が分かっていることが「安心」につながる。そのようなまちであることを発信できれば、「安心・安全なまちなら住みたい」と思う人を増やすことにもつながるのではない。

<他チームとの意見交換>

- ・災害発生後にどのように対応するのかという計画について、以前、まちづくり協議会でも質問したことがある。例えばサッカー場には年間約15万人が訪れ、遠方から来る人も多い。大地震等で道路が通行できなくなった場合、来訪者をどこへ誘導し、何日間滞在してもらうのか、誰が対応するのかといった課題がある。指定管理者が対応するというだけで本当に十分なのか。地域外から来た人も含めた安心・安全を考える必要がある。
- ・外から来た方への対応も含め、自分たちが何日間、手元にある食料等で対応できるのか、その後どうするのかを具体的な災害対策として整理しておく必要がある。こうしたことは大きな費用をかけなくても、まず地域のルールを決めるところから始められるため、具体的な状況を想定して、さらにブレイクダウンしながら決めていくことが重要である。

<当日の意見>



【3班】

①検討項目：都市ブランドや魅力の創出・発信

方向性のキーワード（AI より）	付箋に記載の意見
・地域の魅力発信 ・周遊・交流促進 ・多様な情報発信	・文化の創造 ・自分で稼ぐ、自立

何を？	誰が？	誰と？	どうやって？ どんなことから？
・人材バンク機能→交流があった			
・誰かにレクチャーする機会の創造	・光都で文化をひらく会 ・世界探検 ・課題：結び付きが薄い ・光都ワクワクラボ ・学生スパークル	・支援：NPO 法人（えんしん）、寄付すれば節税 ・地域の企業の方から	
・プランディングとしてアニメをおす ・地球環境を守るための人類防衛軍	・アニメ好きな人 ・おもしろそうと思った人	・神戸市はすでにノウハウ有り	・全国からふるさと納税 ・アニメコラボ、グッズを返礼品に
			・安藤事務所にコンタクトを取る

※赤字：付箋に記載の意見

②検討項目：魅力づくり、イベント展開

方向性のキーワード（AI より）	付箋に記載の意見
・地域資源の活用 ・体験・交流の充実 ・テクノならではの魅力	

何を？	誰が？	誰と？	どうやって？ どんなことから？
			・資金を得る（ふるさと納税） ・情報発信
・コーラスクラブ			
・地域とむすびつけた活動（光都は希望制）			

※赤字：付箋に記載の意見

<発表>

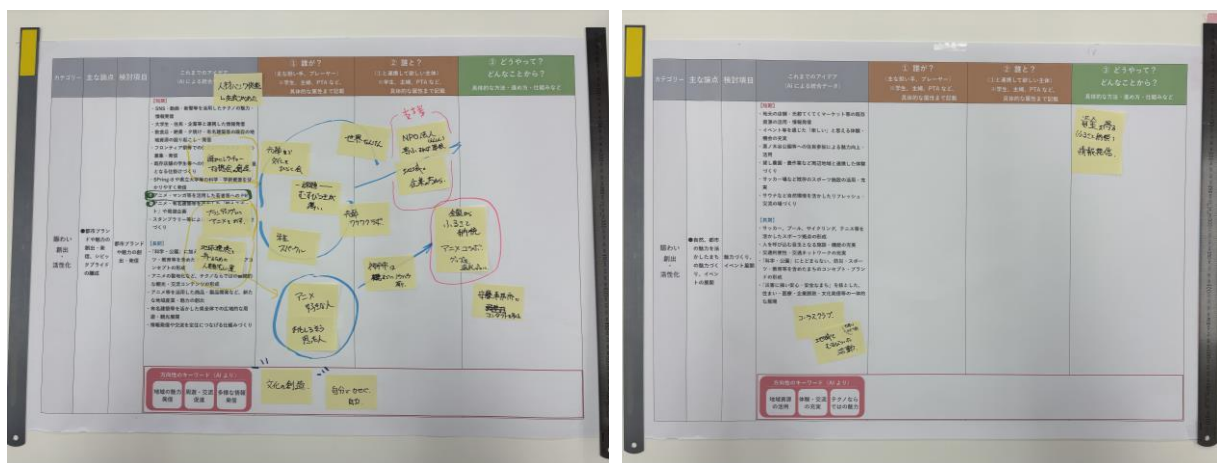
- ・アニメや漫画等を活用した魅力発信について議論した。魅力発信や交流促進、情報発信という方向性に加え、重要なのは「活動のためのお金を稼ぐ」という視点であり、活動を継続するためには資金が必要である。例えば「攻殻機動隊」のようなアニメ作品とコラボレーションし、ふるさと納税の返礼品等に活用したり、クラウドファンディングの題材にしたりすることで、地域活動の資金を調達できないか。
- ・「攻殻機動隊」では、過去に神戸市等とのコラボレーションが行われ、神戸ポートタワー等を描いたイラストの配布や、日本酒等の商品とのコラボレーションも行われている。こうした事例を参考に、制作会社や出版社、権利を持つ企業等に地域の事情を説明し、協力してもらえないか働きかけることが考えられる。誰が主体になるのかという点では、アニメが好きな人など、「面白い」と思う人が自発的に立ち上がっていけばよいのではないか。
- ・AI で整理した「方向性のキーワード」だけでは、上から与えられたものをやらされているような印象もあるため、地域としての自主性や色を加える必要がある。その一つとして、「文化の創造」という視点を加えてはどうかという意見が出た。現在地域で行われている音楽等の活動や、科学に関する取組などを結び付け、播磨科学公園都市に新しい文化をゼロからつくっていくという考え方もある。例えば、こども向けの科学実験教室や学生による活動、小学校で2か月に1回程度、地域の大人がこどもたちに様々な話をする取組等、既に地域には様々な活動がある。こうした人や活動をつなぐことで、播磨科学公園都市らしい文化をつくることができるのではないか。
- ・地元企業から寄付等を受けられる仕組みをつくり、科学イベントであれば、その資金を使ってより面白い実験をこどもたちに体験してもらうなど、地域の中で資金と活動が循環する仕組みをつくることも考えられる。最終的には、自分たちの活動が自立的に回っていく仕組みにしていく必要がある。何から成果が生まれるかは分からないため、「思いついたことは何でもやってみる」という姿勢も重要ではないかと考えている。
- ・アニメの活用と「文化の創造」は結び付けることができる。制作会社等に協力をお願いするだけでなく、地域側にも実際に活動する人の集まりをつくってはどうか。例えば、フィクションとして「地球防衛軍」のような組織を播磨科学公園都市につくり、アニメを活用したイベントやポスターづくり等を行う実働部隊とすることも考えられる。その組織には、住民だけではなく、播磨科学公園都市で働いている人や、地域外に住んでいても活動に興味がある人など、幅広い人に「隊員」として参加してもらうことも考えられる。

<他チームとの意見交換>

- ・地域通貨や地域限定のポイントのような仕組みも考えられるのではないか。例えば、播磨科学公園都市に來たり、地域の活動に参加したりすることでポイントを獲得し、そのポイントを地域内の買い物等に利用できるような仕組みがあれば面白い。
- ・必ずしも現金である必要はないが、「ここでしかできないから、ここに来る」という仕組みをつくるという考え方は面白い。例えばサッカーやアニメを活用したまちづくりも、「ここに来なければ体験できない」ということが前提にあって初めて魅力になるのではないか。

- ・播磨科学公園都市には企業が多く立地しているため、企業の人材や技術も活用できるのではないかな。企業が持っている技術を地域の人に見せてもらったり、地域のイベント等で企業の人材に面白い取組をしてもらったりするなど、企業にも協力してもらえるとよい。
- ・播磨科学公園都市には著名な建築家が設計した建築物も多く、それ自体が大きな魅力である。建築好きの人を対象に、複数の著名な建築を巡る建築ツアーのようなものも考えられるのではないかな。
- ・地域には様々な魅力があってよい。文化をつくること、アニメの聖地としての魅力、夕日の美しさ、建築物など、様々な方向から播磨科学公園都市の魅力を発信していけばよいのではないかな。

<当日の意見>



■コーディネーターからのコメント

- ・今回は初めてテーマごとに分かれてディスカッションを行ったが、時間が全く足りなかったと思う。今後もこのようなやり方を続け、今回できなかったテーマのテーブルにも参加してもらい、今日の議論を整理した上で、さらに新たな意見を積み上げていく形で進めていきたい。
- ・各テーブルの発表や質疑を聞いていると、住民でできそうなことと、行政にお願いしなければならないことが少しずつ見えてきた。また、企業や外国人住民など、今後まちづくりに巻き込んでいかなければならない様々なステークホルダーが見えてきたことも大きな収穫である。具体的には、防災に関する計画をつくること、シェアライドの仕組みを考えること、「攻殻機動隊」等のコンテンツを活用すること、建築ツアーを行うことなど、比較的短期的に取り組みそうなアイデアも見えてきた。
- ・今後の作業部会では、このような具体的な企画についても検討していきたい。具体的にできそうなことと、新たに巻き込んでいく必要があるステークホルダーの双方が見えてきた点で、非常によい議論だった。

■コーディネーターからのコメント

- ・今回の議論を通じて、現在参加しているメンバーだけでは足りない視点も出てきたと思う。
「こういう人に参加してもらった方がよい」という方がいれば、次回以降、この場に呼んでいただき、新たなメンバーを加えていくことも考えてよいのではないか。
- ・今日の議論では、様々な濃淡はあるものの、実現可能性や実行力、つまり「どのようにすれば実現できるのか」というところの糸口が少し出てきたのではないかと。また、「誰のための施策なのか」という視点も重要である。ハラル食材の話や外国人住民の話も出ていた。これまで比較的大きな視点から、「これが足りない」「あれができない」といった議論が多かった印象があるが、今回は「あれができそう」「これができそう」というところまで踏み込めたことが非常によかった。
- ・現在は6つのテーマに分けて検討しているが、今後は「このテーマとこのテーマは実は関係している」といった施策同士の関連性も出てくると思う。そのような議論を進めることで、個別の取組だけでなく、それぞれをどのようにネットワークとして組み合わせていくのかという全体像まで考えられるのではないかと。また、現在ある制度や枠組みの中では「できない」となることもあると思うが、その枠組みをどのように超えていくのかという視点も重要である。最後には資金の話も出ていたが、既存の枠組みがある中で、それをどう乗り越えて実現するのかというところまで、今後議論を深めていければよい。
- ・今回がテーマごとに議論する初回であり、今後もこのような分科会形式を繰り返しながら、参加者には別のテーマについても議論してもらうことで、内容を積み上げていく形がよいと思う。最終的には、それぞれのテーブルだけで検討を完結させるのではなく、「ここにはこの視点が必要だ」とみんなで意見を出し合い、それぞれのシートを参加者全員でつくり込んでいけるような形になるとよい。次回以降、さらに議論を深めていただきたい。

【当日の様子】



以上。